

校長室の窓から

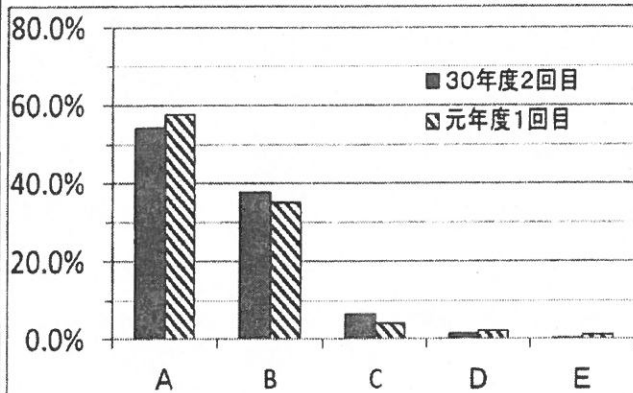
1学期を振り返って

協力していただいた学校評価から

週日、本年度の学校評価に444名の保護者の皆さまから回答がありました。昨年よりも多くの方に協力していただきました。

質問項目は12ありましたが、そのうち重点を置いている4つの項目を説明します。なお、A：あてはまる、B：だいたい、C：あまり、D：あてはまらない、E：わからないの回答を示しています。

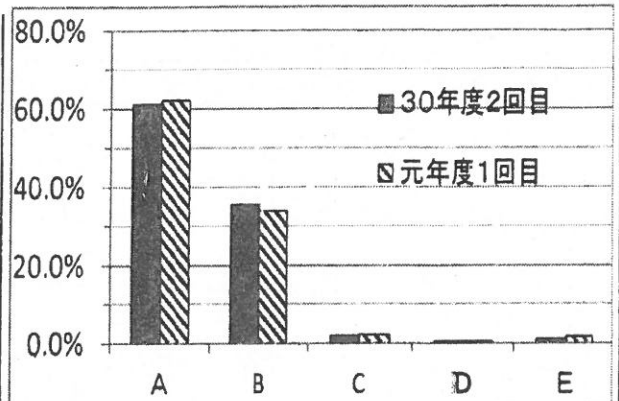
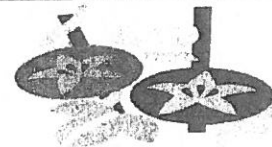
「子どもは自分の学級は楽しく、友だちもいると言っているか」



肯定的な回答が92.5%になっています。前年度と比べると「あてはまる」が3.5%向上しています。4月に旅行的行事を持たずに、学校生活に慣れ、新しい学級のまとまりづくりに力を注ぐ機会を持てるようにしました。2学期には文化祭の合唱づくりがあります。共通の目標に向かってお互いの心を通わせ、学級の成長につなげていきます。

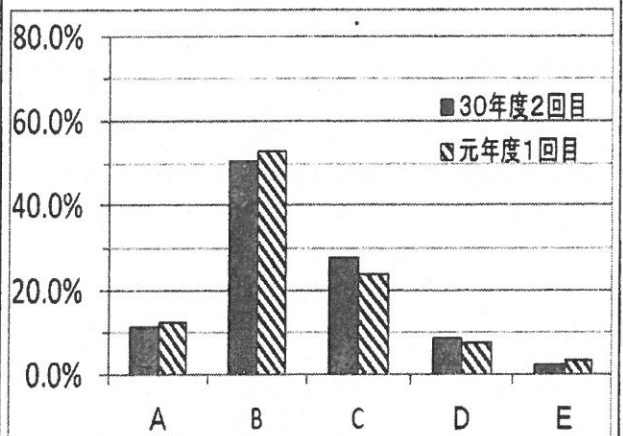
「子どもの通学態度はよいか」

肯定的な回答が95.9%、否定的な回答が2.3%になっています。年度初めは、下校時の自転車通学には苦情が寄せられました。その後、PTAや警察の協力も得て、安全な運転、交通ルールを正しく守ることの指導を重ねてきました。



自転車の安全点検をおろそかにしていることもあるようです。自転車も車両です。定期的にブレーキ、ライトの点灯などを確認していただくようお願いします。

「授業はわかりやすくおもしろいと言っているか」



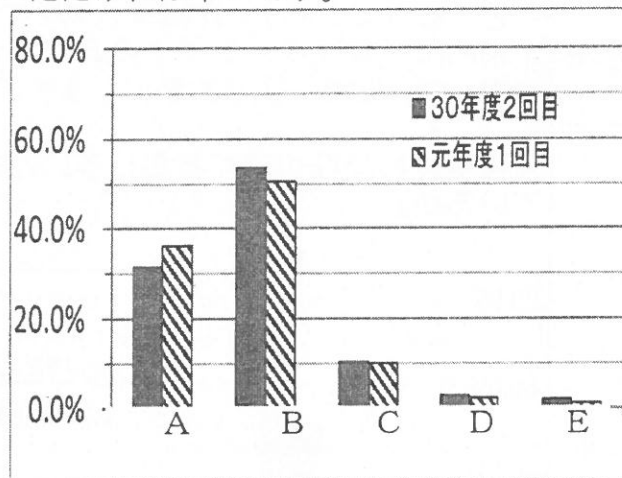
肯定的な回答が65.1%、否定的な回答が31.5%になっています。前年度と比べると少し良くなりましたが、3割の生徒が意欲的に授業に関われないという状況は大きな課題です。

本校では、学習意欲を高めることを目指して授業づくりを行っています。同じ教科同士、教科の枠を超えて授業を見合う機会を持って、授業の進め方を話し合っています。生徒が意欲的に取り組める授業をすることは私たちが第一に達成しなければならない課題です。真摯に取り組んでいきます。

「学校は学校の情報を家庭に積極的に伝えているか」

肯定的な回答が86.7%、否定的な回答が12.3%になっています。

「学校ではどんな活動をしているのだろうか。」や「生徒はどんな活躍をしているのだろうか。」などの疑問を持たれる方は多いと思います。学校の出来事や教職員の思いなどを随時提供していきたいと思えます。各学年だより、メールシステムやホームページにも学校情報はあります。また、学級だよりを発行する学級もあります。家庭でのお子さんとの会話のきっかけにいただければ幸いです。



保護者の皆様にご理解いただきたいこと

昨日の授業参観、教育講演会、学年保護者会への参加ありがとうございました。1・3年の学年保護者会ではお話できましたが、2学年保護者会には間に合いませんでした。欠席した方もいますので、改めてお話しした3点を具体的に示します。

1 夏休みの閉庁日の対応について

今年の夏休みは昨年の5分の4の期間になりました。8月20日には始業式です。

その間、8月13日から16日までと、土曜日、日曜日には校内に窓口対応をする職員がいない学校閉庁日になります。

緊急事態が発生した場合には、5月の10連休同様に緊急連絡用携帯電話(080-4526-1546)に連絡してください。この電話は基本的に校長が持っています。そこを起点として関係者と連絡をとるようにします。

また、閉庁日は部活動も原則行いませんが、駅伝試走や各種大会等への参加の場合には活動する場合もあることをご理解ください。

2 定期テスト教科の変更(前号掲載)

音楽・美術の定期テストは行いません。この2教科は学習指導要領には定期テストで評価できるような知識理解の観点がないからです。評価の必要がないものを評価せず生徒の負担を減らすことが良いと判断しました。

当たり前ですが、普段の授業の取り組みが大切になります。

3 観点別評価と評定の関係について

評定は、学習指導要領により、観点別学習状況の評価を総括するものとされています。

観点別学習状況の評価は「Aは十分満足できる」「Bはおおむね」「Cは努力を要する」で示しています。

しかし、A、B、Cの根拠になる資料には幅があります。例えば、ある観点の満点を30としたときに30ではAですが、25でもAはあり得ます。これらの幅を含めて評定を出しますので、ある教科で、観点がA A A Bとなっても評定は、ある人は5で、別な人は4になることがあります。また、C C C Cでなくとも、1になりえます。

本校の評定は「5は十分満足できるもののうち特に高い」「4は十分満足できる」「3はおおむね満足」「2は努力を要する」「1は一層の努力を要する」です。「特に高いと言えるのか」「一層の努力を要する状況か」は、A B Cの数だけでは一義的に決定するものではないことをご理解いただきたと思います。